



ペットの社会問題

配送課 野畑 貴史

人間の身勝手な理由で保健所や愛護センターに多くの動物が持ち込まれます。

動物愛護センターの調査では犬を持ち込む飼い主の主な事情は

- 引っ越し先がペット禁止だから
- 鳴き声がうるさいので
- 老犬の介護が大変だから
- 思ってたより臭いから
- ブリーダーをやめたので犬が用済みになったから
- 経済的に余裕がないから



どの理由も無責任なものばかりです。

また一度家族としてむかえ入れた犬をこんな理由で持ち込み、殺処分されてしまったとしても飼い主は何も思わないのでしょうか？

2017年現在、年間殺処分数は犬 16,000 頭、猫 67,000 頭であるとされており、過去 10 年間の推移は三分の一以下に減少しているものの殺処分を 0 にするにはまだまだ問題があるのが現状です。

殺処分の方法は炭酸ガスによる窒息死や注射による安楽死等で、環境省から可能な限り「できるだけ殺処分動物に苦痛を与えない方法」によって行うことが求められているが、対象動物が多数の場合コストの観点から炭酸ガスを利用せざるを得ないのが現状です。

収容動物を減らすことは殺処分数の減少だけではなく方法の改善にも繋がるかもしれません。

～里親～

ペットショップでは、かわいらしい子犬がたくさん売られていますので犬や猫を飼いたいと思った時、まず足を運ぶ場所ではないでしょうか？

でもその前にぜひ里親という選択肢も検討してみて欲しいのです。

虐待されたり、人間の身勝手な事情で捨てられ、里親を探している犬猫がたくさんいますので、まず動物愛護センターのホームページなど里親募集コーナーを見てみて下さい。

動物愛護団体では人間の手によって傷ついた動物の心を解きほぐすため、毎日愛情をもって世話をしています。これを繰り返すことで心を開き穏やかな表情に変化したり、トイレトレーニングや無駄吠え対策、散歩などのトレーニングをしている団体も多いようです。

1 匹でも多くの命を救い、人間と動物がうまく共存できる世界になってほしいと願います。

「ポリティカル・コレクトネス」の言葉を知って思ったこと。

代表取締役 家喜 正治

この原稿が掲載されている時期は、年末が近づいてきて都会ではクリスマス商戦が賑やかになっている頃か

と思います。いろいろな場所で「メリークリスマス」の声が上がりますが、日本ではなく米国ではどうでしょうか。

公共の放送や場において「メリークリスマス」が使われることはありません。米国は多種多様な人種や宗教が混在しているため、特定の（ここではキリスト教）のお祝いの言葉は、ふさわしくないとされているからです。

代わりに使われるのは「ハッピーホリデイ」。「クリスマスカード」は「シーズンズグリーティング」、「クリスマスセール」は「ホリディセール」といった具合です。

このような、「用語における差別・偏見を取り除くために、政治的な観点から見て正しい用語を使う（ウィ

キペディアより）」ことをポリティカル・コレクトネスと言います。

日本でも、そのような例は多数あります。「スチュワード」は「キャビンアテンダント」に、「保姆」は「保育士」、「看護婦」は「看護師」等々。

我々日本人にはぴんと来ませんがクレヨンの「肌色」という表記は今は無く、「うすだいだい」「ペールオレンジ」と呼び名を換えています。理由は言わずもがなです。

米国では、「ファイヤーマン（消防士）」は「ファイヤーファイター」に、「カメラマン」は「フォトグラファー」にと、ジェンダーフリーの観点から〇〇マンという呼称は使われなくなりました。「インディアン」は「ネイティブアメリカン（アメリカ先住民の意）」に変わっています。

人種や性別、宗教等における差別を無くすという観点から行われるこれらの置き換えはなるほどと思いますが、このような活動が過剰になるとどうでしょうか。その杞憂は、かの米国で問題となっています。南北戦争での南軍の英雄として各地に建てられている銅像が撤去されるという事例が増えているそうです。黒人差別を受けた側からすればとんでもない、という考え方に基づいています。

アメリカに旅立ち、苦難の航海の末、マサチューセッツ州プリマスにたどり着いた。これがアメリカ合衆国の始まりと、大昔何かの本で知った記憶があります。キリスト教に基づいたアメリカの伝統や文化は間違いなく米国家を形成し、今も存在するはず。現在に至るアメリカの信仰や信条を否定し、氣にくわないからと撤去していくことは、過去の歴史に学ぶ機会をも捨て去るようなことにならないのかと、遠い異国のことではあります。気がかりです。

神社に初詣、お彼岸にはお墓参り、結婚はキリスト教、ハローウィンに仮装で楽しむ。日本は宗教に寛容なお国柄です。全ての宗教は尊重するべきであります。その大前提のもと、日本人のスタイルは決して悪くないと私は思ったりします。